

地球規模課題に対応する 科学技術協力

共に「知」を創造する国際協力

年々深刻化する地球温暖化、自然災害、感染症などの地球規模の課題は、一国や一地域だけで対応することは難しく、国際社会が共同して取り組むことが求められており、科学技術によるイノベーションが課題解決に大きな役割を果たすものと期待されています。

このような状況のなか、JICAは2008年度から地球規模課題対応国際科学技術協力(Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development: SATREPS)を開始しました。日本の科学技術をベースに、日本と開発途上国の国際共同研究によって新たな「知」を創造し、その研究成果を実社会に還元することで地球規模課題の解決を目指します。

実施体制

SATREPSは環境・エネルギー、生物資源、防災、感染症の4分野5領域の地球規模課題の解決につながる、新たな知見の獲得と成果の将来的な社会実装、および開発途上国の人材育成を目指し、開発途上国のニーズを基に、日本と開発途上国の研究機関が国際共同研究を実施します。

外務省・JICA、文部科学省・国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)・国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)が連携してSATREPSを支援します。

日本の研究機関からJSTまたはAMEDに提出された研

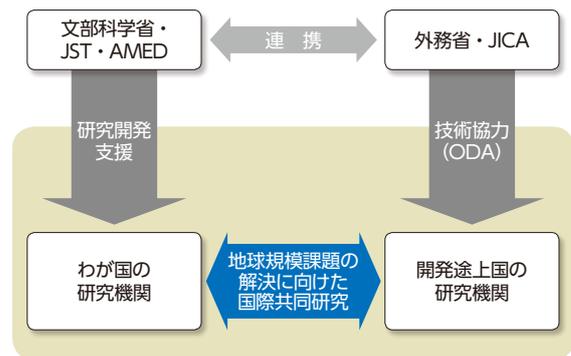


エチオピア：日本側研究者がエチオピア研究者と共に、エチオピアの学生に対して土質試験の実験実習を実施（SATREPS「特殊土盤上道路災害低減に向けた植物由来の土質改良材の開発と運用モデル」）

SATREPS実施体制

地球規模課題対応国際科学技術協力

- 環境・エネルギー、生物資源、防災、感染症分野の地球規模課題について、日本と開発途上国の研究機関が、外務省・JICAおよび文部科学省・JST・AMED連携による支援の下、国際共同研究を実施
- 共同研究を通じ、問題解決につながる成果を創出するとともに、開発途上国研究機関の能力向上を推進



究提案と、開発途上国の日本政府に対する要請内容が合致した案件を対象に、科学技術とODAの観点から選考が行われ、採択された案件は、JICAの技術協力プロジェクトの枠組みで運営されます。JICAは技術協力プロジェクトの実施に必要な経費(日本側研究者の派遣、相手国研究員の受入れ、機材供与、現地活動費など)を提供し、JST・AMEDは、日本国内や相手国以外の第三国で必要となる研究経費などを負担します。

案件の選定と実施状況

2019年度は、開発途上国からのODA要請が182件、日本側研究機関からの提案が144件、そのうち選考対象となったマッチング成立案件は124件でした。そのなかから最終的に12件が採択され、2008年度の事業開始以来の累計採択案件は145件となりました。マラウイが新規の共同研究相手国となり、実施国(実施準備中を含む)は計51カ国となりました。